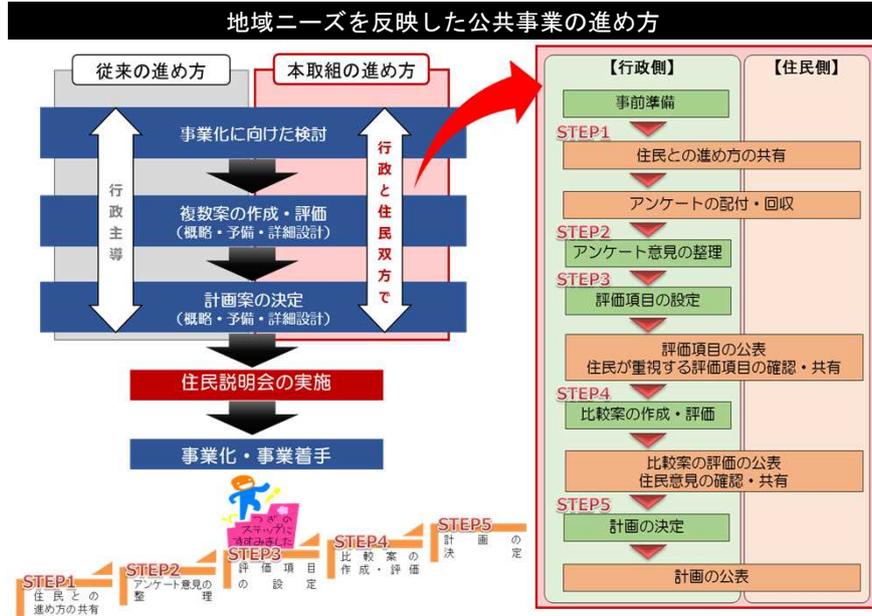


# コラム①. 社会資本整備の取り組み方を変える

## ① 「地域ニーズを反映した公共事業」の推進

「より良い計画」を策定するためには、計画の決定プロセスの透明性の向上を図り、多様な地域ニーズを的確に反映する必要があります。そのため、計画案を県が決定する前にアンケートなどにより、地域ニーズを把握し、計画に反映させる「地域ニーズを反映した公共事業」に取り組みます。



令和4年度は、交通安全対策事業の5事業と砂防事業の2事業で「地域ニーズを反映した公共事業」に取り組みました。

令和5年度については、交通安全対策事業の2事業および砂防事業の1事業で取り組む予定です。

### 県道伊勢崎深谷線（茂呂町二丁目交差点） 交差点改良

令和4年度に県道伊勢崎深谷線（伊勢崎市）で実施した「地域ニーズを反映した公共事業」の事例です。

本箇所は見通しの悪い交差点である上、近隣小学校前まで歩道がないことから、交差点改良事業を実施するにあたり、周辺住民にアンケートを配布し、意見をいただくことで、地域として求めるニーズを把握し、計画に反映するとともに、新型コロナウイルス感染防止にも留意しつつ、各検討ステップごとに住民との合意形成を図りながら、交差点の改良計画を策定しました。



## ②民間活力導入の推進

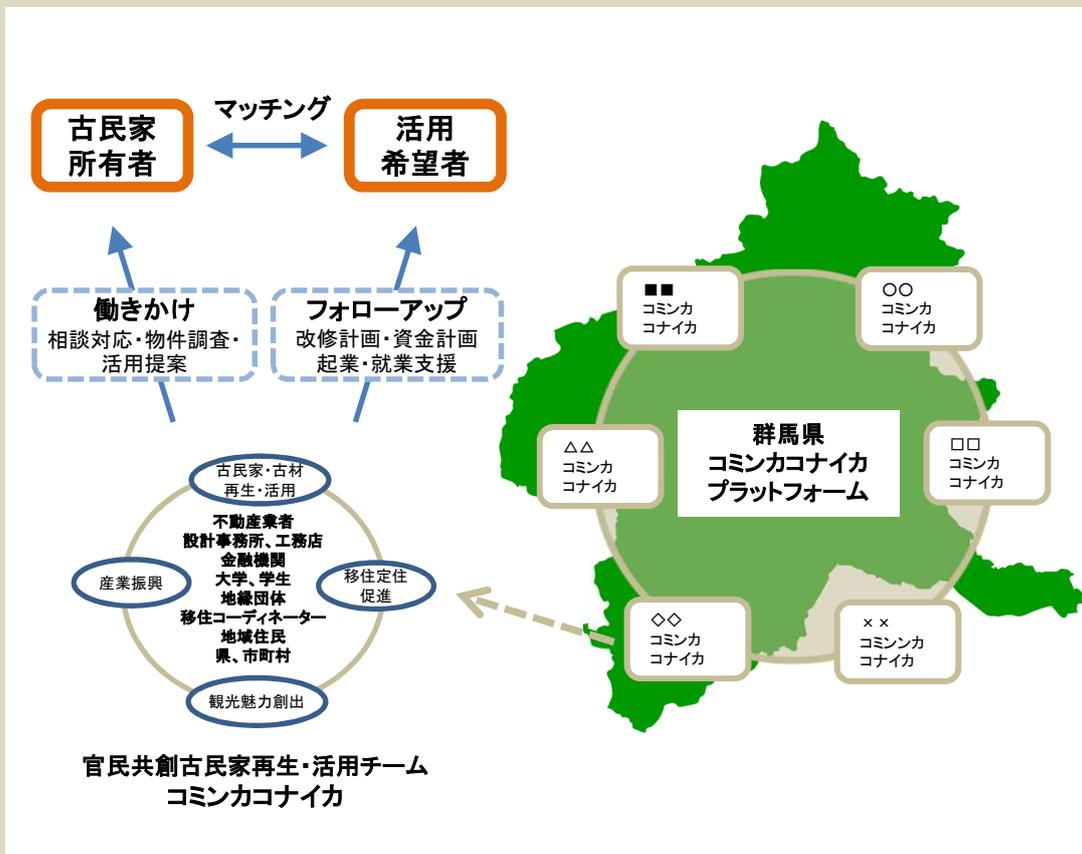
多様化する県民ニーズに対応するため、民間の力を積極的に活用することで、県民サービスのより一層の向上に努めます。

### (1)官民共創による古民家再生・活用の推進

県内各地に官民共創の古民家再生・活用チーム「コミンカコナイカ」を組織し、「コミンカコナイカ」の活動により、群馬県の地域資源である古民家を活用した魅力あるまちなみの創出やまちの活性化、官民共創コミュニティの醸成を図ります。

令和4年度は、「コミンカコナイカ」の準備組織を設置し、事業全体の仕組みや運営方法等を検討するとともに、県内の古民家のデータベースの作成等を行いました。

#### コミンカコナイカによる古民家再生・活用推進のイメージ



古民家再生事例



古民家再生事例



古民家活用事例



## ③ Society5.0の実現に向けたDX(デジタルトランスフォーメーション)の推進

### (1) 県土整備プランDXアクションの推進

群馬県では、2023年までに最先端のデジタル県になることを目指しており、県土整備部においてもDXを推進しています。限られた人員や財源で「ぐんま・県土整備プラン2020」を着実かつ計画的に推進するため、県土整備分野のDXに係る方針や施策、工程などをとりまとめた「県土整備プランDXアクション」を令和3年11月に策定しました。

今後、県土整備プランDXアクションに基づき、県土整備分野のDXを推進するとともに、DX推進の「3つの観点」と「8つのアクション」により、課題解決に向けた新たなDXの取組の立案・推進に努めます。

#### 県土整備プランDXアクション

限られた人員や財源で「ぐんま・県土整備プラン2020」を着実かつ計画的に推進するために

### 県土整備プランDXアクション

失敗を恐れず、DXへ挑戦する風土づくりを目指して

詳しくはこちら

R3年11月  
群馬県県土整備部

#### 【3つの観点】

- 県民**: 県民の暮らしの安全性・利便性の向上  
誰もが安全で快適に暮らせる社会の実現
- 業界**: 建設産業の労働環境の改善・生産性の向上  
地域の安全・安心の守り手である建設産業の持続的な発展
- 職員**: 行政職員の業務の効率化・迅速化  
デジタルDXを促しつつ行政サービスの更なる向上に必要な業務にまい進

#### 【8つのアクション】

1. わかりやすい情報の発信
2. 点検・調査・監督・維持管理業務等の自動化・省力化・高度化
3. 建設現場における作業の自動化・高度化・支援
4. データの蓄積・利活用
5. 非接触・リモート型への転換
6. 手続きのデジタル化・オンライン化
7. 誰もが移動しやすい環境の整備
8. 人材・産業の育成・支援

#### 主な事例

### 通信アプリ「LINE」を活用したデジタル避難訓練の実施

#### D (デジタルにより)

LINEを通して生活エリアの土砂災害警戒区域及び浸水想定区域や避難所の位置を確認し「適切な避難行動」を容易に学ぶ

#### X (どう変わるか)

携帯端末により自分の生活エリアにどのような危険があるかなどを認識する事で、防災意識の醸成を図る

#### 【スケジュール】

2021年度				2022年度				2023年度				2024年度				2025年度			
1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
				システム構築	周知	試行・改良 効果検証	システム改良	本格運用・ブラッシュアップ											

#### 【試行結果】

- ・令和4年6月1日から配信を開始したところ、12月末までに訓練参加回数が15万回超
- ・訓練参加者からのアンケートでは、9割以上の方が「防災意識が高まった」と回答

## ④わかりやすい情報発信による県土整備行政の見える化

県民との信頼関係の構築や社会資本整備に対する理解促進を図るため、計画の策定から事業の実施、完成後の評価・検証に至るまでの、社会資本整備の全てのプロセスにおいて「見える化」を積極的に推進します。

### (1)ストック効果の見える化

「ストック効果事例」の作成により、社会資本の必要性や重要性をわかりやすく県民に「見える化」します。

#### ○ストック効果とは

社会資本が整備・蓄積されることにより機能することで、継続的かつ中長期にわたり、地域経済の発展や県民生活の向上をもたらす効果のこと。

耐震性の向上や水害リスクの低減による「安全性の向上効果」や、生活環境の改善やアメニティの向上による「生活の質の向上効果」のほか、移動時間短縮等による「生産性向上効果」があります。

### (2)事業の目的・進捗状況の見える化

「よくわかる公共事業」の作成により、主要事業の目的や完成予定年度、進捗状況等をわかりやすく県民に「見える化」します。

より多くの県民に周知し、さらなる社会資本整備に関する理解促進を図るため、スマートフォン等で閲覧可能な「よくわかる公共事業」のHPにリンクする「二次元バーコード」を積極的に活用します。



### (3)建設産業の魅力発信

現場見学会やインフラツーリズムの実施、建設産業の魅力を伝える動画の配信など、建設産業や土木施設の魅力を広く県民に伝えることで、社会資本整備に対する理解促進と建設技術者を志す人材の拡大につなげます。

動画については、群馬県公式チャンネル「tsulunos」において、県が製作した番組を配信しています。

